「コミュニケーション大切」

取手・戸頭中 元パラ五輪代表・山口さん

ゴールボールを説明する山口凌河さん（右）＝取手市戸頭

取手市立戸頭中（松戸孝泰校長）で13日、ゴールボールの日本代表として東京パラリンピックに出場した山口凌河さん(26)を招いた講演会が開かれ、1、2年生計約140人がゴールボールや視覚障害への理解を深めた。

山口さんは同市出身。中学3年の時に視力を失い、県立盲学校、東洋大を卒業し、現在は関彰商事（つくば市）社員。

山口さんは競技について、アイシェード(目隠し)を着けることで、視覚からの情報を一切遮断して行うため、仲間とのコミュニケーションが必要不可欠だと説明。その上で「目が見える、見えないに関係なくコミュニケーションを大切にしてほしい」と呼びかけた。

その後、生徒たちは目隠しされた状態で手をつないで輪をつくったり、競技で使用するボールを投げたりするなど、障害を疑似体験した。

2年生の古谷深郁さん(14)は「お互いに声をかけ合わないとプレーできないなど、視覚障害の疑似体験は難しかった。コミュニケーションの大切さが分かった」と話していた。